

マイクロファイバーを使用したソックスエイドの実用性について Study on practicality of socks aid using micro fiber.

○岡沼美帆 (OT)¹⁾, 葛西恭恵 (OT)¹⁾, 加福隆樹 (OT)²⁾

¹⁾公益財団法人 シルバーリハビリテーション協会 メディカルコート八戸西病院, ²⁾学校法人 臨
研学舎 東北メディカル学院

Key words: 靴下着脱動作, 自助具, 人工股関節置換術

【はじめに】大腿骨頸部骨折により人工骨頭置換術を実施した患者に, タオル地製の布製ソックスエイド (以下: タオル製) を使用したが十分に引き上げることができなかった. そこで, マイクロファイバー製の布製ソックスエイド (以下: マイクロ製) を作製し使用したところ着用できた. 今回, タオル製とマイクロ製を用いた靴下の着用動作を比較し, それぞれの特性と実用性を検討したので報告する.

【方法】対象は, 健常者 31名 (男性11名, 女性20名) とし, 年齢は22~43歳(28.9±5.7歳)であった. 被験者には, 事前に本研究に関する説明を十分に行い, 同意を得た上で実験を行った. 課題はタオル製とマイクロ製を用いて靴下の着用を行った. 靴下は, 女性が22.0~24.0 cm, 男性は25.0~27.0 cmと26.0~28.0 cmの大きさのものを使用した. 解析内容は, 足のサイズ (足長と足囲), 着用方法, 主観的着用のしやすさ評定尺度, 着用時間, 着用後の外出の可否を聴取・計測し, タオル製とマイクロ製を比較した. 統計学的処理はWilcoxon符号付き順位検定を用い, 有意水準を5%未満とした.

【結果】女性の足長は22.5±1.0 cm, 足囲は20.7±1.1 cmで, 男性の足長は25.8±1.1 cm, 足囲は23.0±0.8 cmであり, 今回使用した靴下で窮屈さを訴える被検者はいなかった. 着用方法はa, b, c, d, eの5パターンに分けられた. aは紐を左右同時に引き上げる, bは紐を左右交互に引き上げる, cは足指を屈伸させて靴下をたぐりよせた後に紐を左右同時に引き上げる, dは足指を屈伸させて靴下をたぐりよせた後に紐を左右交互に引き上げる, eは紐の左右同時引き上げと左右交互引き上げを組み合わせた方法であった. タオル製, マイクロ製ともにcの方法で着用する被検者が多く, eが最も少なかった. また, 素材による着用方法の偏りはなかった. しかし, たぐりよせ回数はタオル製の方が有意に多かった ($p<.05$). 主観的着用のしやすさ評定尺度では, タオル製の方が着用しやすいが2名, マイクロ製の方が着用しやすいが24名であった. 着用後の外出の可否は, 「着用後, 修正せずに外出ができる」と返答したのはタオル製で4名, マイクロ製で14名であった. 着用時間は, ソックスエイドに靴下をセッティングする時間, 引き上げる時間, トータルの着用時間すべてにおいてマイクロ製の方が速かった ($p<.05$).

【考察】タオル製, マイクロ製ともに足指で靴下をたぐりよせるcの着用方法が多く, さらに同じくたぐりよせるdを加えると7割がたぐりよせる方法で着用している. しかし, たぐりよせ回数はタオル製の方が有意に多かった. これはマイクロ製に比べタオル製の方が滑りにくいことが影響していると推察する. また, このたぐりよせ回数の多さが, 時間の延長につながったものと示唆する. さらに, 動作の延長は動作の困難性を反映するという報告と相まって, マイクロ製の方が着用しやすいという評価尺度と一致した. 以上のことから, マイクロ製は半数以上が修正なしで外出でき, 動作時間も短いことから実用性はあると示唆する. 特に, 滑りやすさに注目すると, 上肢の筋力が低下している対象者に有効であると推察する.